

## 新・下野市風土記

## 歴史上の三悪人？



下野市教育委員会 文化財課

かつて明治以降、戦前までのいわゆる皇国教育において、弓削道鏡、平将門、足利尊氏は、歴史上の三悪人と教えられました。実はこの3名、下野市と縁が深い方々なのです。

弓削道鏡は、多くの方がご存知のことと思いますのであとで詳しく述べます。足利尊氏は、こちらも読者の皆さんが思うように足利市と所縁が深いのですが、下野薬師寺跡に建立された安国寺は、足利尊氏と弟の直義が、南北朝の戦いの戦死者や後醍醐天皇の菩提を弔うため、臨済宗の夢窓疎石の勧めにより、1345年（興国6年・貞和元年）に北海道と沖縄を除く各国に建立した寺です。この全国に寺を建立する考えは、聖武天皇発願の国分寺建立を意識したと考えられています。

下野国では、下野国分寺の地ではなく下野薬師寺に建立されました。おそらく下野国分寺は、

14世紀中頃には律令期の伽藍が失われ、国の費用でなく近隣住民の寄付など（いわゆる庶民の信仰）により金堂跡に小さな草ぶきのお堂が建てられていたものと考えられます。かたや下野薬師寺は、建物の一部が残っており、その建物を改修することで安国寺とした可能性が考えられます。記録では、1092年（寛治6年）に下野薬師寺の僧慶順が東大寺に対して寺の復興要請をしています。このときには残念ながら援助はされませんでした。その後、鎌倉幕府から庇護を受けた可能性を示す記録もあり、鎌倉時代後期には慈猛が再興を果たした記録もあります。また、1574年（天正2年）成立の『薬師寺縁起』には、下野薬師寺が鑑真に関連する由緒ある戒壇が置かれた霊地であることからこの地を安国寺に定めたと記されています。もしかして、尊氏・直義兄弟が下野薬師寺のことを知っていて、

ここを選んだと考えると特別な感じがします。少し、内容がそれますが信長が秀吉に命令して、備中国（現在の岡山県）の高松城を水攻めにします。このとき本能寺の変が起り毛利と和睦するための折衝を行った僧が、安国寺恵瓊ですが、恵瓊は安芸国（現在の広島県）の安国寺で出家したことから安国寺を名乗っています。また、有名な一休さんも京都の安国寺で修業しました。この寺は、応仁の乱で焼失してしまいましたが、幕末の新選組の屯所となった壬生寺のそばにあったようです。

平将門についてもご存知の方が多いかもかもしれません。将門は平安時代中期の豪族で、茨城県旧豊田・猿島郡（現在の坂東市周辺）を本拠としました。一族の領地争いに端を発し、西国の藤原純友の乱とあわせ「承平天慶の乱」と呼ばれる平安時代の一大事件を起こした人物です。身内の争いから東国八か国をすべて奪い「新皇」を名乗り、自分の兄弟と家来を国司に任じようとしたことから、天皇に背いた国家反逆者とな

ります。この当時の最大の悪事行為は天皇に逆らうこと、いわゆる「大逆」です。

940年（天慶2年）12月11日将門軍は、下野国府に出兵。下野守藤原弘雅・大中臣完行らは戦わず、鍵と印綬を差し出し降伏。命からがら京へ逃げ帰りました。この下野国府襲撃のときに下野国分寺も将門に火をつけられたという伝説があると聞いたことがあります。しかし、発掘調査ではその痕跡は発見できませんでした。おそらく将門は下野国分寺に火をつけていません。汚名を雪いでおきたいと思います。（つづく）



安国寺（薬師寺）境内に建てられた六角堂